

取組の内容

①漁場の生産力向上に関する取組状況

・漁場監視（密漁パトロール）

密漁者が増え、なかでも禁漁期間中の伊勢海老被害が多々あり、伊勢海老解禁時に漁獲量が落ち込む実害が出たため、密漁パトロールを海域班、陸班に分かれ実施した。

・産卵場・育成場の整備（アマモの移植、漁礁の設置）

東村海域で全く見られなくなった、リュウキュウスガモ（アマモ）の移植を行い、もずくの適地育成場造成を目指して経過を観察した。

潜水漁業者が獲れる漁礁で、観光漁業にもなり得る漁礁を目指し、アミノ入り U 字型ブロックを積み上げ、その上に小型中層パヤオを付けた。水深は 20 m で潜水可能な場所とした。半年後、一年後、経過観察を行う。

・漁場の管理・改善（サメ駆除）

潜水漁業操業中に漁獲物を奪われる被害が増加し、人的被害がいつ発生してもおかしくない状況であった為、延縄式によるサメ駆除を実施し漁業被害の軽減、安全操業を図る。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

・新規養殖への着業（ヒオウギ貝養殖）

新規養殖としてヒオウギ貝の養殖試験を行った。ポルトガル牡蠣も同時に行う予定だったが、購入予定だった石川漁協の天然採苗が種付き不良で購入できなかった。

・簡易加工（テングハギの干物、ソデイカゲソのスマーク）

東村海域でよく獲れるテングハギは売値も安くクセもある。塩干しすることで、独特のクセが抜け旨味が倍増する。ソデイカゲソのスマークと共に、改良を重ね東村特産品を目指す。

・販路拡大（簡易加工加工品 無料試食、配布会）

簡易加工で製作した加工品を東村道の駅にて無料試食会を行う。試食をし、アンケートに記入して頂いた方に試作品の配布を行う。

取組の成果

・漁場監視（密漁パトロール）

土曜日をメインに昼一回、夜五回行った。密漁者通報には至らなかった。キャンプブームによるビーチでのキャンプ客が増えたことが密漁減に影響がありそうである。

- ・産卵場・育成場の整備

リュウキュウスガモ（アマモ）移植から一カ月後に経過観察を行った。リュウキュウスガモは根と茎だけ残り葉はなくなっていた。別の細いアマモは葉も残っている。

アミノ酸入り漁礁＋中層パヤオ設置作業は問題なく終わった。経過観察が重要である。

- ・新規養殖への着業（ヒオウギ貝の養殖）

R3.8月搬入時0.5cm～1.0cmだったヒオウギ貝は、R3.11月16日に平均2.48cm。R.4.2月24日では平均3.87cmに成長した。

しかし、貝を食べる貝の侵入が発生し、侵入された提灯籠はほぼ全滅となった。

貝食貝の対応が今後の課題となった。

- ・簡易加工（テングハギの干物、ソデイカのスモーク）

テングハギは塩分が少なかったり、気温が高いとすぐ発酵してしまい、塩分濃度の調整に最後まで悩まされた。濃度と乾燥を早める為、最初から切り身にして干すことで濃すぎない干物の製作が出来た。塩味の問題はソデイカスモークでも同じであった。

- ・販路拡大（簡易加工加工品、無料試食、配布会）

サメ被害で予定より潜り魚のテングハギが集まらず、苦勞したが何とか試食分、配布分が用意出来た。当日は反響も大きく、お昼前には試食分、配布分完売となった。

アンケートからも美味しい！買いたい！の声を多く頂けた。引き続き改良を行っていく。



漁場の管理改善



新規養殖業への着業



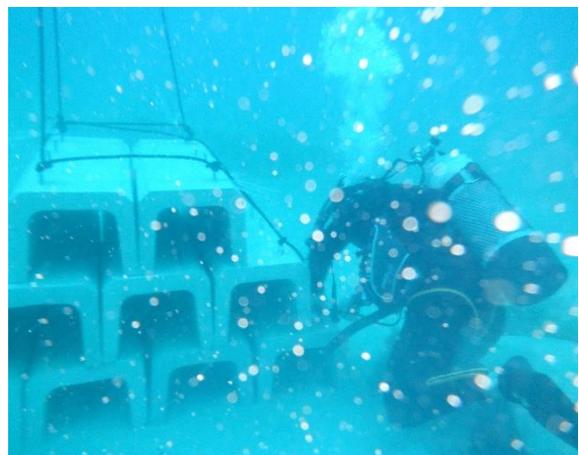
販路拡大



簡易加工



漁場監視



産卵場・育成場の整備